

2021 年度前期授業アンケート集計結果（全体的特徴）

	2021 年度前期				2020 年度前期			
	教員数		講義数		教員数		講義数	
	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施
専任	46	46	146	146	49	49	152	150
非常勤	54	54	101	101	62	61	105	103
看護	22	21	42	39	14	14	23	23
総合計	122	121	289	286	125	124	280	276

※看護学科未実施3科目については実習科目のため、別アンケートを実施する

【属性】 アンケートに答えた学生（のべ回答者）の内訳は、次表のとおり

学部学科別人数・構成比			
学部	学科	回答人数	構成比
経済学部	経済学科	645名	16.8%
	公共政策学科	341名	8.9%
経営学部	スポーツ経営学科	1347名	35.0%
	情報メディア学科	513名	13.3%
看護学部		1000名	26.0%
計		3846名	100.0%

学年別人数・構成比		
学年	人数	構成比
1年次	2222名	57.8%
2年次	1004名	26.1%
3年次	589名	15.3%
4年次	31名	0.8%
5年以上	0名	0%
計	3846名	100.0%

学部学科別人数・回答率			
学 科	受講人数	回答人数	回答率
経済学科	2340名	645名	27.6%
公共政策学科	1372名	341名	24.9%
スポーツ経営学科	5814名	1347名	23.2%
情報メディア学科	2430名	513名	21.1%
看護学部	2608名	1000名	38.3%
計	14564名	3846名	26.4%

$$\text{延べ回答者数} / \text{延べ受講者数} = \text{回答率}$$

$$3,846 / 14,564 = 26.4\% \quad (\text{2020 年度前期} : 35.7\%)$$

【授業アンケートの実施率と回答率】

○学生の回答率(=延べ回答者数/延べ受講者数)であり、前年度前期アンケートでは35.7%であったのが、今回は26.4%に低下している。前年度よりアンケートの収集方法はオンラインでの収集に移行しており、同じ収集方法のアンケートにて回答率の大きな減少が見られた訳であるが、これはアンケート実施期間の授業形態に大きく影響を受けている。すなわち、今年度前期は基本的に対面授業が行われている中でアンケートを実施しているが、前年度はコロナ禍で遠隔授業を実施している中でアンケートを実施している。オンライン

で収集するアンケートへのアクセスは、対面授業からよりも遠隔授業からの方が容易であるため、前年度の回収率が上がっていると考えられる。オンライン実施での回答を促す手段には何かしらの工夫が必要であると考えられる。

○この回答率の低下が、後述するアンケート各設問での授業評価結果の大幅な改善（すなわち、授業に対して肯定的な評価が増加したこと）に大きく影響していると考えている。大半の設問において肯定的評価の比率で 10%以上の評価の改善が見られるが、これは劇的に授業内容が改善されたというよりも、アンケート自体が「熱心な学生層が中心となった回答となっている」と推定される。回答率の下げ幅の 10%程度と、肯定的評価の比率の向上の 10%は、厳密な意味では符合するものではないが、直接的な関係があると思われる。

○回答者の構成比を学科別にみると、スポーツ経営学科が高い割合を占めるが、スポーツ経営学科の学生数の比率は大きいいため、実際にはスポーツ経営学科の学生が回答にあまり熱心でなかったと言える。学年別の構成比についても同様に学生数との比率において考えると、1年次生が真面目に回答を行っていること、4年次生があまり多くの講義を受講しないことを反映した数値になっている。

○昨年度前期との比較で言えば、助走無しでいきなり遠隔授業に取り組んだ昨年度前期と、1年間の経験を積んだ遠隔授業を交えて半分は対面授業を行った今年度前期との比較は難しいものがある。すなわち、前回アンケートに比べて今回アンケートの数値が良いものであっても、実態が改善されたとは簡単には結論付けられない。回答率が下がっていることも、今年度は比較的真面目な学生による評価が中心となっているという意味では偏ったデータと考えられる。

設問 4.【板書・パワーポイント・資料は分かりやすいか（読みやすいか）】

○「とても分かりやすい」、「やや分かりやすい」と回答した割合の合計は 70.7%であり、「とても分かりにくい」「やや分かりにくい」と回答した割合の合計（9.6%）を上回っている。

前回アンケートの結果（「分かりやすい」、「やや分かりやすい」と回答した割合は 60.7%、「とても分かりにくい」「やや分かりにくい」と回答した割合の合計は 14.9%）と比較すると比較的大きな改善があったと言えるが、その理由は。

○評価の改善に呼応して、「板書も的確で理解の整理をしながら受けることができた」「板書の字が大きく、図も見やすいのでとてもわかりやすかった」「パワーポイントを使った授業が多くてわかりやすかった」「穴あきパワーポイントで授業を進めたことが良かった」などの肯定的な感想が目立つ。これに対して、「板書が少なく、話している内容が聞き取れない」「プリントやパワーポイントの誤字脱字が多すぎる」などのような否定的な感想は昨年度に比べて少なくなっている。

○コロナ禍での遠隔授業の経験により、教員側に資料や板書への準備への熱意が高まった可能性もあるが、大きな評価の大きな改善を説明出来る要員は判然とししない。

設問 5.【教員の話し方・説明は分かりやすいか】

○「とても分かりやすい」、「やや分かりやすい」と回答した割合の合計は 74.4%であり、「とても分かりにくい」「やや分かりにくい」と回答した割合の合計（10.0%）を上回り、前回のアンケートの結果（「とても分かりやすい」、「やや分かりやすい」と回答した割合の合計は 62.4%、「分かりにくい」「やや分かりにくい」と回答した割合の合計は 15.1%）と比較

しても、大きな完全がある。

○この設問に関連しても、「一つ一つ丁寧に説明してもらえるのでとてもわかりやすかった」「授業を動画でわかりやすく説明したり、プリントにまとめたりしてわかりやすく授業を展開していた」などの肯定的な感想が目立つ。とは言え、「はっきり喋ってほしい」などの従来から変わらぬ不満が依然として一定数はある。各教員はこのような感想を見ているはずであるが、改善につながっていないことが危惧される。

設問6.【授業内容がどの程度理解できるか】

○「とても良く理解できる」「ある程度理解できる」と回答した割合の合計は76.7%であり、「全く理解できない」「あまり理解できない」と回答した割合の合計(7.9%)を上回っている。さらに、前回アンケートの結果(「とても理解できる」「ある程度理解できる」と回答した割合の合計は67.0%、また「全く理解できない」「あまり理解できない」と回答した割合の合計は9.5%)と比較すると、理解が進んだという数値になっている。

○肯定的な感想には「小テストがあったため理解度の確認ができた」という授業方法に関するものと、「熱意のこもった説明で理解しやすい講義で」などの教員の姿勢に関するものに大別されるが、前者の比率が高い。特に授業で行う前回までの振り返りに関する肯定的な感想が多いが、これは例年みられる傾向である。

設問7.【授業に集中するための環境(私語、遅刻、途中退室が無い状況等)は保たれているか】

○「とてもよく保たれている」「ある程度保たれている」と回答した割合の合計は82.7%であり、「全く保たれていない」「あまり保たれていない」と回答した割合の合計(4.0%)を上回っている。これについても、前回アンケートの結果(「とても保たれている」「ある程度保たれている」と回答した割合の合計は71.9%、「全く保たれていない」「あまり保たれていない」と回答した割合の合計は7.8%)から大きく改善されている。

○例年は環境が保たれていないことへの不満が感想には多いが、今年度は「授業の開始前に私語が無いよう呼び掛けをされていて、静かな環境が保たれていた」「私語に厳しかったので、集中して聞くことが出来た」などの肯定的な感想が目立つ。私語に対する教員の厳しさが求められていることが分かる。

設問8.【授業に意欲的に参加したか】

○「とても意欲的である」「ある程度意欲的である」と回答した割合の合計は83.7%であり、「全く意欲的でない」「あまり意欲的でない」と回答した割合の合計(3.0%)を上回っている。この設問についても、前回アンケートの結果(「とても意欲的である」「ある程度意欲的である」と回答した割合の合計は74.2%であり、「全く意欲的でない」「あまり意欲的でない」と回答した割合の合計(5.2%))と比較して大きく改善している。

○記述式アンケートでは、「ビデオを多く使って授業をしていたため意欲的に授業に取り組めた」など、ビデオに関係した感想が多い。安易にビデオ教材に頼ることは注意が必要ではあるが、学生が動画の世代であることを考慮することも必要と感じさせる。

設問 9.【授業に参加してどのように感じているか】

○「とても満足」「やや満足」と回答した割合の合計は 77.3%であり、「とても不満」「やや不満」と回答した割合の合計 (4.9%) を上回っている。この設問についても、前回アンケートの結果(「非常に満足」「まあまあ満足」と回答した割合の合計は 64.9%、「非常に不満」「やや不満」と回答した割合の合計は 7.5%) と比較して大きく改善している。

○記述式アンケートでは、「生徒側の質問には余すことなく満足のいく回答を与えていた点がよかった」「前回の復習をしてくれるのでやったままの放置にならず満足している」「この授業では学生の考えを重視していてとても良かった」などの授業方法に関する肯定的な感想が多い。これは例年の傾向でもあり、授業内容に対するものよりも数の上では多い。教員は授業改善において教える内容を中心に考えがちではないかと思うが、それだけでは不十分であることが伺える。

設問 10.【予習・復習を毎回平均してどの程度行っているか】

○「1 時間以上」「30 分～1 時間程度」「30 分未満」と回答した割合の合計、すなわち予習・復習を行っている割合は 66.2%であり、他方「ほとんどしない」と回答した割合は 33.8%であった。

前回アンケートの結果(「1 時間以上」「30 分～1 時間程度」「30 分未満」と回答した割合の合計は 42.9%、他方「ほとんどしない」と回答した割合は 57.1%) と比較して、やはり大きく改善している。

○学科間ごとに「ほとんどしない」と回答した割合は、情報メディア学科 (32.0%)、公共政策学科 (37.5%)、経済学科 (30.1%)、スポーツ経営学科 (49.1%) であり、全体としては改善している中で、学科間の差の傾向には変化が無い。

設問 11.【学生の理解を確認しながら授業が進められているか】

○学生の理解が「確認されていない」と回答した割合は約 13.2%であり、この値は前年度の 13.3%と大きく変わっていない。複数回答可の理由選択においても、「小テストや課題」(32.3%) や「前回の振り返り」(30.5%) の数値に前年度との差は小さい。

○この設問は、比較的客観的な内容を答えるものであり、設問 1 から 7 までは比較的主観的な内容と言えるのではないと思われる。これは、授業そのものの評価よりも回答した学生層の違いにより今回のアンケート結果が改善していることの証左とも捉え得る。

○記述式アンケートでも「小テストや課題」等が高評価されていること等、例年との変化は少ないように思われる。

【設問 12 および 13 の結果 (記述式アンケート) の概要】

設問 12 および 13 は記述式アンケートであり、順に「この授業で大変良かった点と思われる点」、「この授業で工夫・改善して欲しいと思われる点」を問うものとなっていて、設問 12 が授業に肯定的なコメント、設問 13 が否定的なコメントである。今回のアンケートでは、設問 12 は 1364 件、設問 13 は 485 件の回答があった。前回アンケートでは、設問 12 は 1271 件、設問 13 は 455 件であり、肯定的なコメントの比率が増加しているが、以上の設問で見えてきたような肯定的な方向への大きな変化は見られない。一方、アンケート自体のべ解答者数は、昨年度の 5,173 から今年度は 3,846 に減少していることを考え合

わせると、学生が記述式アンケートに回答する比率が上がっている。これは、「熱心な学生層が中心となった回答となっている」という推定に符合している。今回のアンケート結果での評価の改善が額面通りには受け取れないことの証左となっていると判断している。

以 上